



# ニュースレター

No.8(最終号)

発行日 2013年7月

## 1 ごあいさつ

本研究プロジェクトは、2008年10月に初回の会合をもち、2009年1月の第3回全国家族調査において、皆様にフォローアップ調査をご承諾いただきスタートいたしました。あれから4年半以上が過ぎようとしています。

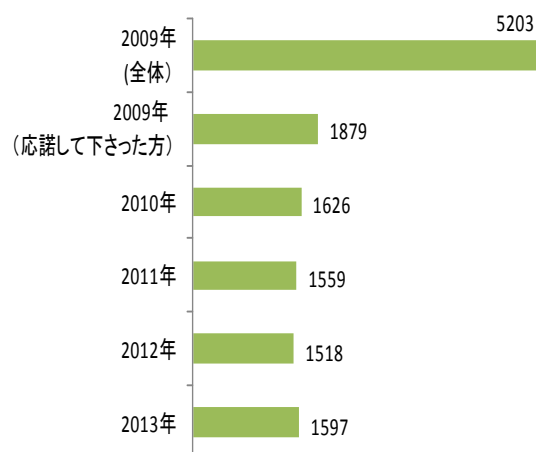
この間、たくさんの出来事がありました。2009年に民主党政権が誕生し2012年には自民党が政権を取り戻しました。2009年の中国・九州北部豪雨、西日本の台風水害にはじまり、ここ数年“ゲリラ豪雨・大

雪”や強風・竜巻、“爆弾低気圧”等の自然災害が相次ぎました。とくに2011年3月11日の東日本大震災は、多くの方が被害にあわれ、その後の原発事故を含め現在も困難な状況が続いています。

私たちは、本プロジェクトを支えて下さった皆様のご協力のもと、これからも家族に関する研究を推進し、個人と社会の発展に寄与していきたいと考えています。

## 2 ご回答の御礼

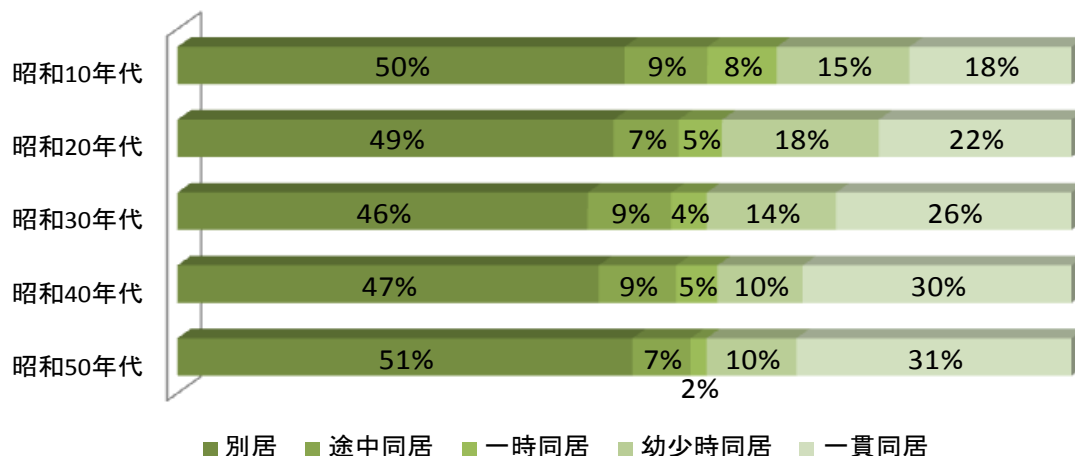
5回にわたりフォローアップ調査へご協力いただき、ありがとうございました。初回の回答者5,203名のうち1,879名の方にフォローアップ調査をご快諾いただき、本年まで調査を継続することができました。最終回となる今回は、昨年、一昨年を上回る方からご回答いただき、その数は1,597名にのぼります。重ねて、お礼申し上げます。



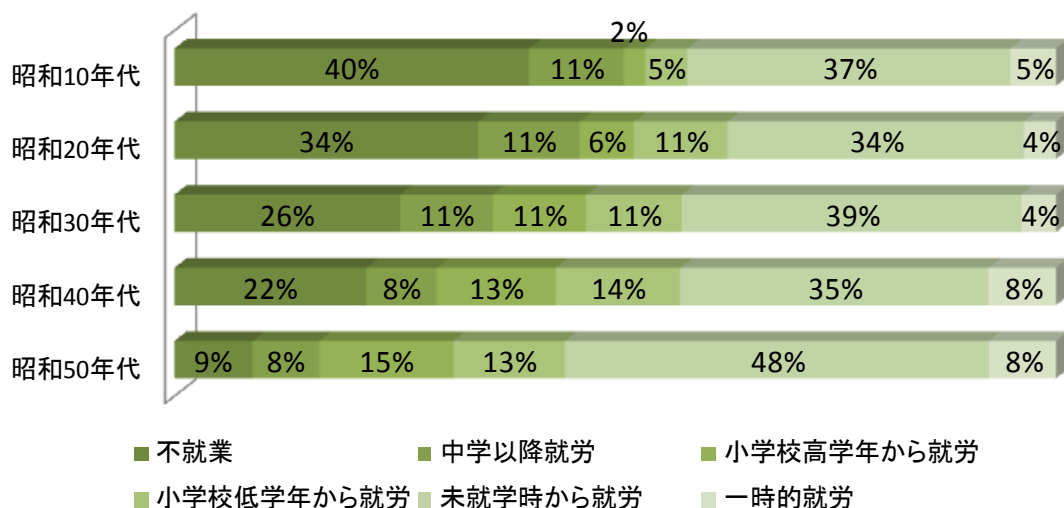
### 3 調査結果のご紹介

#### ご自身が育った家庭生活の世代の違いをみてみました。

世代によって子どもの時の家族構成は異なっているでしょうか。



昭和10年代生まれの方から昭和50年代生まれの方まで、15歳になるまでの間に祖父母と同居したことがある方は約5割でほとんど違いはありません。昭和10年代の方の方が親のきょうだいが多く、親御さんが長男ではなかった方が多かったためと思われます。また、世代が若くなるほど幼少期から15歳になるまで祖父母と同居し続けた方の割合が高くなっています。これは祖父母の寿命の延びと関係していると考えられます。

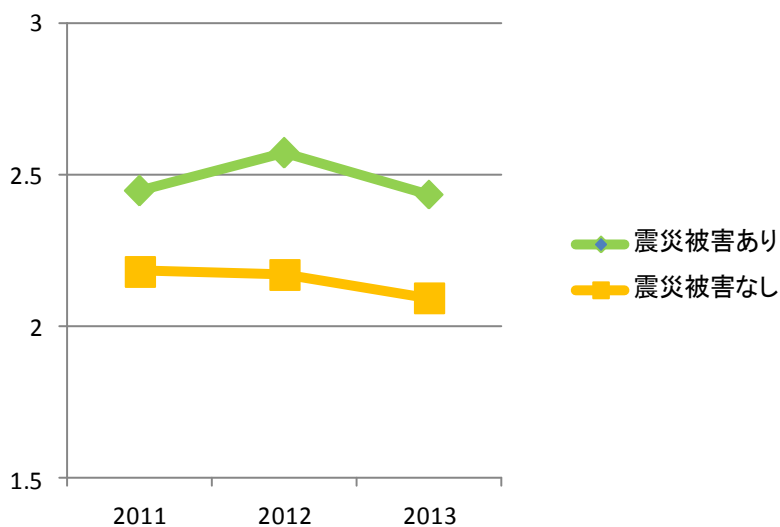


こちらのグラフは、ご自身が子どもの時にお母様が働いていたかどうかを示しています。15歳になるまでの間にお母様がずっと仕事についていなかった方の割合は昭和10年代生まれで40%ですが、昭和50年代生まれでは9%に低下しています。ご自身が未就学児の時からお母が一貫して仕事についていらした方は48%にのびります。

## 東日本大震災による影響を見てみました。

このフォローアップ3回目の調査がほぼ終了した2011年3月11日に東日本大震災が起きました。ご回答いただいた皆さんの中でも、被害もしくは仕事への影響などがあつた方は225名にのぼります。震災直前の2011年の調査と、ほぼ10ヶ月後の2012年の調査、ほぼ1年11カ月後の2013年の調査を比較しました。

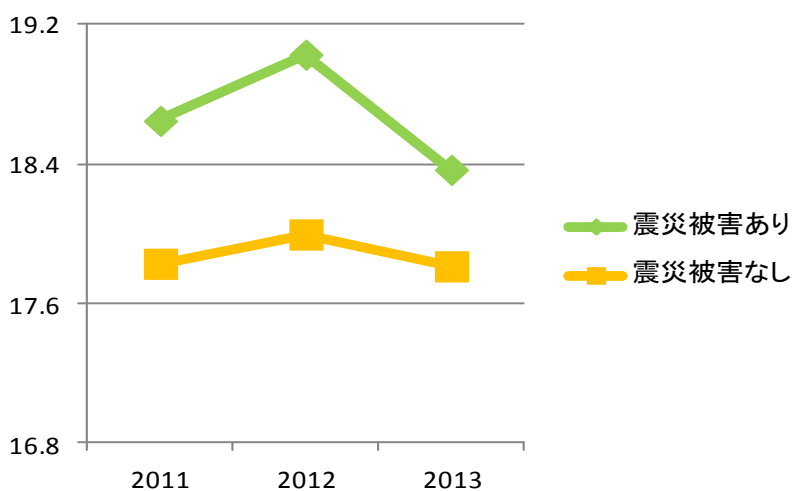
### 家計に対する不安の変化



もともと家計に不安があつた方が、震災によるダメージが大きいようです。

また、震災による被害を受けた方が、震災後に家計に対する不安が高まり、2年近くたった今年になつてもその差は埋まらないようです。

### 精神的ストレスの変化



精神的なストレスの高さを見ると、もともとストレスを抱えていた状態にあつた方が震災の被害をうけ、震災によってその差は大きく広がりましたが、現在ではややその差は小さくなつています。

調査結果にはあらわれていませんが、2011年の調査直後が最もストレスが高かつたと思われま

\*上下いずれのグラフも年齢と性別の影響を除外した後の平均値の比較

## 4 NFRJ-08パネル実行委員会から

NFRJ-08パネル実行委員会では、皆様からいただいた貴重なデータを有効に利用するため、定期的に研究会を開催しています（右上写真）。

2月22日に、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター寄託者表彰式において、日本家族社会学会全国家族調査委員会が表彰されました（右下写真）。ご回答いただいた皆様の代表として、表彰楯を受け取ってまいりました。

2014年に横浜で開催される世界社会学会において、本プロジェクトの企画によるセッションが受理されました。それを契機に日本の家族についての研究成果を国内外に発信していく予定です。今後ともご支援のほど、お願いいたします。



- ★ ご不明な点がございましたら、下記までお知らせください。

社団法人 中央調査社 NFRJ係  
〒104-0061  
東京都中央区銀座6-16-12  
0120-48-5351（フリーダイヤル）  
<http://www.crs.or.jp>



本調査でお送りする郵便物にはこのロゴがついています

〈実行委員会メンバー〉

西野理子（東洋大学）〈委員長〉  
永井暁子（日本女子大学）〈事務局長〉  
田中慶子（家計経済研究所）  
田中重人（東北大学）  
筒井淳也（立命館大学）  
水落正明（南山大学）  
三輪 哲（東北大学）  
保田時男（関西大学）

NFRJ-08パネル実行委員会ホームページ

<http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/followup.htm>